

## **Argon** for Email

インストールおよび入門ガイド

バージョン1.7.0

ドキュメントリビジョン 1.0

## 著作権

修正番号 1.0 2017 年11 月

Clearswift Ltd. 発行

© 1995–2017 年 Clearswift Ltd.

All Rights Reserved.

ここに含まれる資料は、特に定めのない限り、Clearswift Ltd の独占的な財産とします。Clearswift の財産は、いかなる部分においても、Clearswift Ltd の明白な許可なく、電子的、機械的、 photocopy、録音によるいかなる方法を問わず、いかなる形態にても複製、配布、伝送、および読み込み可能なシステムに保存することはできません。また、その他いかなる方法にても使用することはできません。

この文書に含まれる情報には、説明の目的で架空の人物、企業、製品および出来事が含まれることがあります。実在の人物、企業、製品および出来事に類似する場合があっても、これらはすべて偶然であり、このような類似性に起因するいかなる損失に対しても Clearswift は一切の責任を負わないものとします。

Clearswift のロゴおよび Clearswift の製品名は、Clearswift Ltd. の商標です。その他すべての商標は、各社の商標です。Clearswift Ltd. (登録番号 3367495) は英国で登記しています。登録事務所の所在地は、1310 Waterside, Arlington Business Park, Theale, Reading, Berkshire RG7 4SA, England です。ユーザーは、輸出、輸入、および暗号の使用に関して、当該国のすべての法規を必ず遵守しなければなりません。

Clearswift は、この文書のいかなる部分においてもいつでも変更できる権利を留保します。

著作権と同意書の完全なバージョンは、[ここ](#) をクリックしてご確認ください。

## 目次

著作権 .....	ii
目次 .....	iii
<b>1. このガイドについて .....</b>	<b>5</b>
1.1 Clearswift ARgon for Email とは .....	5
<b>2. インストールの前に .....</b>	<b>6</b>
2.1 インストールのタイプ .....	6
2.2 ソフトウェアの入手 .....	6
2.3 動作環境 .....	7
ハードウェア要件 .....	7
インストール メディア .....	7
サポートされるブラウザ .....	8
<b>3. Clearswift ARgon for Email のインストール手順 .....</b>	<b>9</b>
3.1 Clearswift ARgon for Email のインストール手順 .....	9
3.2 ISO イメージからのインストール .....	9
3.3 Clearswift の First Boot Console の実行 .....	10
ARgon for Email インストール ウィザードの使用に関する注記 .....	13
3.4 Clearswift オンライン リポジトリへのアクセスの有効化または無効化 .....	14
<b>4. Clearswift ARgon for Email バージョン 3.8 からのアップグレード .....</b>	<b>15</b>
4.1 オリジナル システムのバックアップ .....	15
4.2 ARgon Server のインストール 1.7.0 .....	15
4.3 システム バックアップの復元 .....	16
<b>5. リリース 1.x からリリース 1.7.0 へのアップグレード .....</b>	<b>17</b>
<b>付録: ソフトウェアインストールプロセス( ディスクから) .....</b>	<b>19</b>
インストール後の注意事項 .....	20
ソフトウェアのインストールプロセスが完了したら... .....	20
<b>付録: ソフトウェアのインストールプロセス( Clearswift オンラインリポ ジトリから) .....</b>	<b>20</b>
インストール後の注意事項 .....	22

ソフトウェアのインストールプロセスが完了したら... .....22

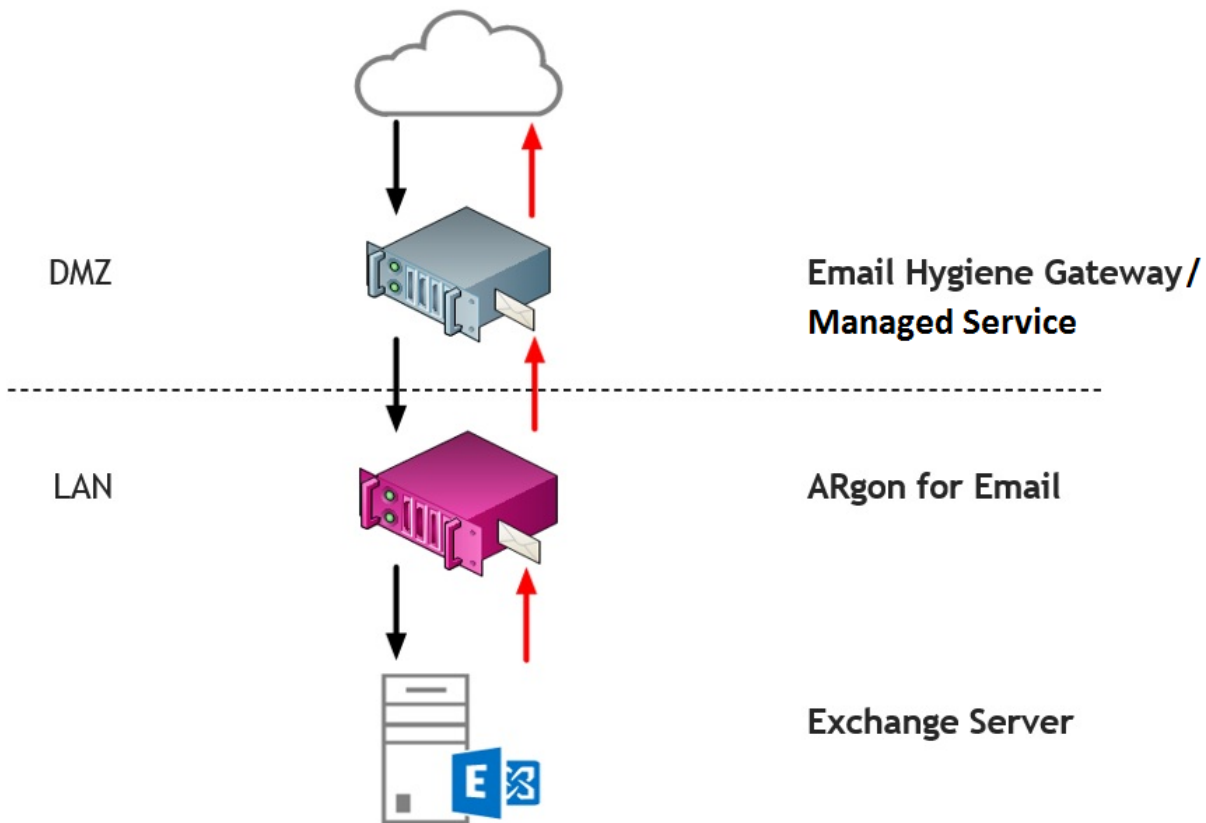
付録: **USB** インストール メディアの準備 .....**22**

# 1. このガイドについて

このガイドにはClearswift ARgon for Email を仮想マシンまたは物理サーバーにインストールする管理者向けの情報が記載されています。具体的には、完全インストールに必要な手順および要件について説明します。

## 1.1 Clearswift ARgon for Email とは

Clearswift ARgon for Email が提供するアダプティブ データ損失防止 (A-DLP) ソリューションは、既存の電子メール セキュリティ インフラストラクチャーと連携するように設計されています。Clearswift ARgon for Email は、データリダクション、ドキュメントのサニタイゼーション、および構造のサニタイゼーションを含むアダプティブ リダクション機能を追加することで、既存の電子メール セキュリティとデータ損失防止 (DLP) ソリューションを補います。



## 2. インストールの前に

このセクションでは、動作環境と Clearswift ARgon for Email のインストール前に必要な考慮事項を説明しています。ARgon Server は、64 ビット Red Hat Enterprise Linux (RHEL 6.9) 上で動作します。物理サーバーまたは仮想マシンに製品をインストールすることができます。サポートされるプラットフォームの詳細については、「[動作環境](#)」を参照してください。

### 2.1 インストールのタイプ

次のいずれかのプロセスを使用してをインストールできます。

インストールプロセス	説明	参照
標準インストールプロセス	RHEL 6.9 と Clearswift ソフトウェアの両方を含む ISO イメージを使用して本製品をインストールするユーザーに適用されます。	<a href="#">ISO イメージからのインストール</a>
ハードウェアインストールプロセス	Clearswift から提供されているプレインストール済みハードウェアを使用して本製品を導入するユーザーに適用されます。	<a href="#">デフォルトの資格情報を使用して、cs-admin としてログインします。</a>
ソフトウェアインストールプロセス( ISOから)	既存の RHEL 6.9 プラットフォームに本製品をインストールするユーザーに適用されます。	<a href="#">付録A: ソフトウェアインストールプロセス</a>
ソフトウェアのインストールプロセス( オンライン Clearswift リポジトリから)	既存の RHEL 6.9 プラットフォームに本製品をインストールするユーザーに適用されます。	<a href="#">付録B: ソフトウェアインストールプロセス</a>

### 2.2 ソフトウェアの入手

Clearswift ARgon for Email ソフトウェアは、以下から入手できます。

- [Clearswift download area](#) から Clearswift ARgon for Email ISO イメージをダウンロードできます。
- Clearswift (ハードウェアを購入の場合はすでにソフトウェアがプレインストールされています。)

## 2.3 動作環境

インストールの前に、以下の動作要件を確認してください。

### ハードウェア要件

コンピューターまたは仮想マシンには、テストおよびデモ環境では、最低限 4 GB 以上の RAM と 60 GB 以上のハードドライブが必要です。Clearswift では、実稼働環境で使用する場合はストレージおよび処理要件に応じて 200GB 以上のハードドライブをお勧めしています。ハードウェアのサイジングについての詳細は、ハードウェアのサイジングについての詳細は、

メッセージ ボリューム	プロセッサ	プロセッサ数	メモリー	ディスク	RAID
低 (1 時間あたり 20,000 以下)	デュアル コア	1	4GB	320GB+ SATA/SCSI	オプション
普通 (1 時間あたり 50,000 以下)	デュアル/ク アッド コア Xeon	1	4GB	320GB+ SATA/SCSI	オプション
高 (1 時間あたり 60,000 以下)	デュアル/ク アッド コア Xeon	1	6GB	2 x SAS 15,000 RPM	はい(RAID 1)
非常に高 (1 時間あたり 60,000 以上)	クアッド コア Xeon	2	6GB	複数 SAS 15,000 RPM	はい (1, 10)

### インストール メディア

必ず正しいバージョンの ISO イメージを使用してください。インストールに使用する ISO バージョン: EMAIL\_470\_170.iso

ISO イメージのコピーを Clearswift リポジトリからダウンロードしたら、以下の方法を使用して、ソフトウェアをインストールします。

- 光学式 DVD に ISO イメージをコピーする: Clearswift では、Clearswift ARgon for Email ソフトウェアをインストールする場合、この方法をお勧めしています。

- USB メディアに ISO イメージをコピーする:手順はこのガイドの付録 B を参照してください。
- 仮想 DVD ドライブとして ISO イメージをアタッチする:この方法は仮想マシンにのみ適用できます。

#### サポートされるブラウザ

TLS1.2 ( サイファー ) の暗号化を使用した Clearswift ARgon for Email への接続をサポートし、次のブラウザでテストされています。

- Internet Explorer IE10 (Windows 7)
  - Internet Explorer IE11 (Windows 7、Windows 8)
  - Mozilla Firefox 17、24、30、36 以上
  - Google Chrome 40 以上
  - Microsoft Edge (Windows 10)
-



## 3. Clearswift ARgon for Email のインストール手順

オンライン Clearswift リポジトリでダウンロードできる ISO イメージから Clearswift ARgon for Email ソフトウェアをインストールできます。

インストールプロセスでは次の作業を行います。

1. Red Hat Enterprise Linux 6.8 オペレーティング システムと Clearswift ARgon for Email をインストール メディアからインストールします。
2. コンソール ベースの *Configure System* ウィザードを実行し、ネットワーク設定を含むデフォルトのシステム値を調整します。
3. ソフトウェアの最新の更新ファイルがある Clearswift のオンライン リポジトリへのアクセスを有効化します。

ARgon Server がインストールされたら、*Clearswift Install Wizard* を [完了] をクリックして終了します。

### 3.1 Clearswift ARgon for Email のインストール手順

次の手順では、Red Hat Enterprise Linux 6.9 オペレーティングシステムのインストールが完了してから行う、Clearswift ARgon for Email のインストール方法について説明しています。

[「セクション 3.2 ISO イメージからのインストール」](#) は、RHEL 6.9 と Clearswift ソフトウェアの両方を含む ISO イメージを使用して標準インストールを実行する場合にのみ適用します。



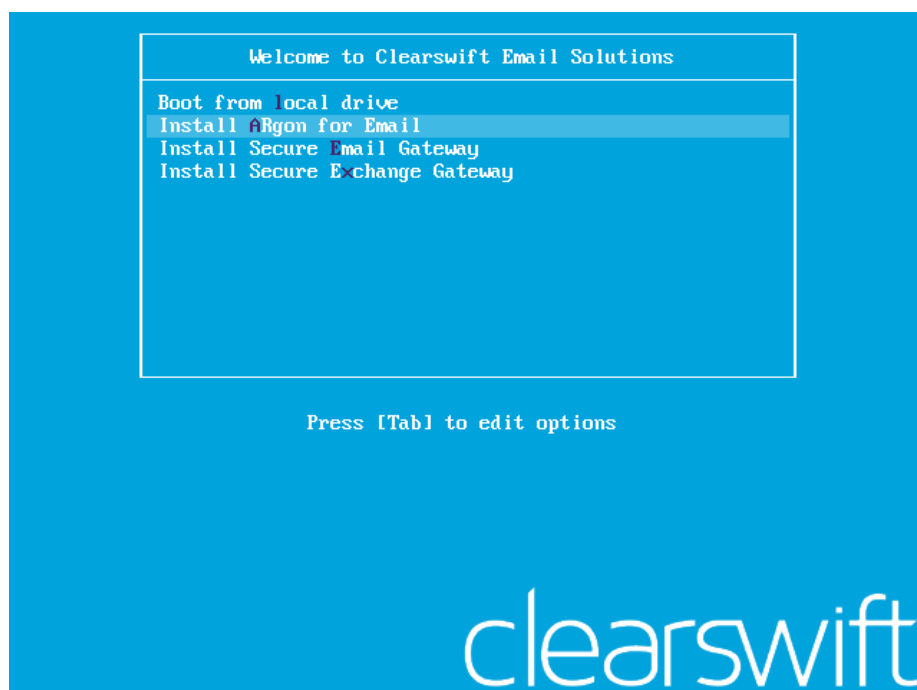
ハードウェア インストールを実行する場合には、[「セクション 3.3 Clearswift システム設定ウィザードの実行」](#) を参照してください。

既存の RHEL 6.9 サーバーにインストールする場合は、このガイドの付録 A または付録 B の手順を使用してインストールを実行してください。その後、[第 3.3 節の「\[First Boot Console\] の実行」](#) を参照して、Clearswift ARgon for Email のインストールを完了します。

### 3.2 ISO イメージからのインストール

1. ISO イメージが格納されているメディアをドライブに挿入し、サーバーの電源を入れます。

[Welcome to Clearswift Email Solutions] 起動画面が表示されます。起動デバイスが見つからない場合は、BIOSでシステムの起動シーケンスを調整する必要があります。



2. 矢印キーまたはキーボードのショートカットを使用して、メニューから **[Install ARgon for Email]** を選択します。 **Enter** キーを押して、インストールを選択します。

インストールプロセスが開始され、自動的に実行されます。



インストール後のスクリプトなど、インストールプロセス全体を完了するために10~15分かかります。パッケージのインストールが完了したら、インストールプロセスでは5分ほど "Running post-installation scripts" のメッセージが表示されます。このメッセージが画面に表示されている間は、インストールプロセスがバックグラウンドで実行されているため、プロセスを中断しないようにしてください。インストールプロセスが完了すると、システムは自動的に再起動されます。 *Welcome to Clearswift Email Solutions* と表示された起動画面が再び表示され、60秒のタイムアウト後に **Boot from local drive** が自動的に実行されます。

### 3.3 Clearswift のFirst Boot Console の実行

次の [First Boot Console] の手順を完了します。

## 1. Clearswift の [ First Boot Console ] の実行

- ログイン: **cs-admin**
- パスワード **password**

[ *First Boot Console* ] が表示され、設定プロセスを開始することができます。

## 2. 画面の指示に従って以下を選択します。

- **Locale Configuration**
- **Keyboard Configuration**
- **Timezone Configuration**



ARgon Server のシステム時間およびロケールの設定には、ここで選択した内容が反映されます。ロケールは後から変更できないため、インストール時に正しく設定することが重要です。

## 3. [ **Network Configuration** ] ページで次の設定を更新します:

- System Hostname: 新しいホスト名を入力して、[ **Save** ] を押します。
- Network Adapters: ネットワーク アダプターを選択して、[ **Edit** ] を押します。[ **IPv4 Addresses** ] を押して、選択した IP address を **Edit** します。編集したら、[ **Save** ] を押します。
- DNS サーバーDNS サーバー: DNS エントリーを選択して、[ **Edit** ] を押します。必要な場合、[ **Search Domains** ] を追加するか、または空白のままにします。  
編集したら、[ **Save** ] を押します。

## 4. **Repository Configuration** ページでリポジトリ設定を構成します。



Clearswift オンラインリポジトリは、通常、インストール後にデフォルトで無効になっています。つまり、ローカルメディアからアップデートを取得しなければなりません。ただし、インターネットにアクセスできない場合は、[ **Online Mode** ] を選択して、Clearswift オンラインリポジトリから更新情報を受け取ることができます。

## 5. **cs-admin password** ページにて、cs-admin アカウントの新しいパスワードを

入力してください。パスワードの複雑さは、実施しているパスワードポリシーに依存します。Clearswift password policy は、デフォルトでISOイメージからの標準インストールに適用されます。このポリシーは、長さ8文字以上、辞書単語に似ていない(例: Pa55word)、シーケンス(例: 1234)が含まれていない、および下記の文字タイプら3つ、各文字タイプに少なくとも1つ以上の文字が含まれるパスワードを設定する必要があります。

- 英大文字
- 英小文字
- 数字
- 記号

詳細および例については、オンラインヘルプの「[Clearswift パスワードポリシーの必要条件](#)」を参照ください。オンラインヘルプで、パスワードポリシーを無効にする方法に関する情報を提供しています。

6. 設定を適用し、サーバーの再起動を確認します。
7. 再起動後、ブラウザを開き、次の ARgon Server のIP アドレスに移動します。

**<https://<ip-address>/Appliance>**



IP アドレスを確認するには、デフォルトの資格情報を使用してコンソールにログインします。

**[View System Status]** を選択して、**[OK]** をクリックします。

[ The ARgon for Email installation wizard ] 画面が表示されます。

Clearswift を選んでいただきありがとうございます。セットアップ処理は、簡単な手順を順次実行して進みます。セットアップ中、ネットワークの設定について情報を入力する必要があります。

ソフトウェア会社からライセンス キーとシリアル番号が通知されているはずです。ここで、それらの詳細を入力してください。

会社名 :


ライセンス キー :


シリアル番号 :

次へ

設定を適用してから、Clearswift ARgon for Email を使えるようになるまで 5 ～ 10 分ほどかかります。ARgon Server のインターフェースにアクセスできる場合、オンラインヘルプの「[最初の手順](#)」を参照してください。

### ARgon for Email インストール ウィザードの使用に関する注記

 ウィザードで表示されたネットワーク設定には、Red Hat Enterprise Linux を設定したときに作成した設定が反映されます。これらの設定は読み取り専用で表示されます。

 ウィザードの設定は、インストールの直後、追加のネットワーク アダプターを設定する前に行うことをお勧めします。ただし、インストールウィザードの設定前にマシンの再起動が必要な場合は、再起動後にファイアウォールを無効にしてください。ファイアウォールを無効にするには、`service iptables stop` コマンドを実行します。ウィザードを完了すると、ファイアウォールは自動的に再起動されます。

### 3.4 Clearswift オンライン リポジトリへのアクセスの有効化または無効化

Clearswift First Boot Console で、オンライン Clearswift リポジトリまたは( オフライン) ローカルメディアから適用する更新を選択しました。

Clearswift オンラインリポジトリは、通常、インストール後にデフォルトで無効になっています。つまり、ローカルメディアからアップデートを取得しなければなりません。ただし、インターネットにアクセスできない場合は、[ **Online Mode** ] を選択して、Clearswiftオンラインリポジトリから更新情報を受け取ることができます。

必要に応じて、後でオンラインリポジトリのソースを変更することができます。

[ **Configure System** ] > [ **View and Apply Software Updates** ] > [ **Enable/Disable use of Online Repositories** ] の順にクリックします。

オフラインリポジトリからオンラインリポジトリに切り替えると、通常、公開から24時間以内に Red Hat セキュリティ修正プログラムにアクセスできます。ほとんどのオフラインインストールでは、これを推奨しています。ただし、今後の Clearswift 製品のアップグレードにオンラインリポジトリも使用する予定がある場合にのみ、これを行う必要があります。



オンラインからオフラインへの切り替えはサポートされておらず、将来的に更新の問題につながる可能性があります。

システムが最新の状態であることを確認するには、Server Console を使用してシステムまたは製品のアップグレードを適用する必要があります。コマンドラインを使ってアップグレードした場合、'no updates available'と表示されます。

## 4. Clearswift ARgon for Email バージョン 3.8 からのアップグレード



Clearswift ARgon for Email を初めてインストールする場合は、このセクションを省略してください。

このセクションでは、ポリシー設定とシステム設定を、Clearswift ARgon for Email バージョン 1.1 から1.7.0にインポートする方法を説明します。Clearswift ARgon for Email 1.7.0 をインストールする前に、既存のバージョンでバックアップを実行してください。

### 4.1 オリジナル システムのバックアップ



FTP サーバーのシステム バックアップは、最新の適用された設定のみ対象となります。それよりも前のポリシー設定、および検疫されたメッセージ、監査とトラッキング データ、ログが必要な場合には、まずシステム バックアップからの復元を行い、次に新しい ARgon Server のインストール後に .bk ファイルを復元する必要があります。

1. 設定を適用します。これにより、最新バージョンに移行します。
2. 既存のARgon Server システムを使用して、**[システム センター]** > **[バックアップとリストア]** ページに移動します。
3. タスク パネルの **[今すぐシステムをバックアップ]** オプションを使用して、システム バックアップを実行します。



使用可能なシステム領域をすべてバックアップすることをお勧めします。



システム バックアップは、障害復旧の手段として、またシステム アップグレード計画の際に使用することをお勧めします。他の目的で (たとえば、ピアグループを作成するときのARgon Server のクローンを作成する手段として) 使用しないでください。障害復旧およびシステム アップグレード以外の目的がある場合は、設定のバックアップとリストアを使用してください。

### 4.2 ARgon Server のインストール 1.7.0

このインストールガイドの手順に従って Clearswift ARgon for Email をインストールします。

Clearswift ARgon for Email をインストールしたら、ソフトウェアの最新の更新ファイルがある Clearswift のオンラインリポジトリへのアクセスを有効化する必要があります。一へのアクセスを設定する必要があります。詳細については、「[Clearswift オンラインリポジトリへのアクセスの有効化](#)」を参照してください。

### 4.3 システム バックアップの復元

1. 新規のインストール済み ARgon Server を使用して、**[システム センター]** > **[バックアップとリストア]** ページに移動します。
2. タスク パネルのオプションを使用して、**[システムの復元]** を選択します。FTP 設定を入力し、**[接続]** をクリックします。



システムの復元には、バックアップの作成時に設定したすべての領域が含まれます。また、設定、検疫されたメッセージ、および監査ログが含まれる場合もあります。システムの復元が完了すると、ARgon Server は再起動します。



## 5. リリース 1.x からリリース 1.7.0 へのアップグレード



**Clearswift ARgon for Email** を初めてインストールする場合は、このセクションを省略してください。

Clearswift ARgon for Email 1.7.0 へのアップグレード時には、以下の手順に従いソフトウェア更新をダウンロードして適用してください。

SSH セッションを開き、Clearswift Server Console にアクセスします。cs-admin アクセス資格情報を使用してログインします。

### オンラインモードとオフラインモード

オフラインモードは、インストールがインターネットから切断された閉じた環境で動作するように設計されています。特殊なシステムの要件がある場合を除き、オンラインモードで Clearswift ARgon for



Email をインストールしてください。

オフライン アップグレードを実行するには、適切なメディア (DVD/USB) にマウントされた最新リリースの ISO コピーが必要です。この手順を完了するために、さらにガイダンスが必要な場合には、Clearswift テクニカル サポートにお問い合わせください。

オンラインリポジトリが有効になっている場合、更新は夜間に(自動的に)ダウンロードされます。すぐに適用することができます。最新のセキュリティ修正が発行されたと思われる場合は、[ **Check for New Updates** ] ボタンを使用することもできます。

ソフトウェア更新プログラムを適用するには:

1. Clearswift Server Console のメインメニューで [ **Configure System** ] > [ **View and Apply Software Updates** ] > [ **Apply Updates** ] > [ **OK** ] の順に選択します。
2. [ **Yes** ] をクリックして、更新ファイルの適用を確認します。  
ダウンロードされたすべての更新がインストールされます。この処理には数分かかることがあります。進行状況ログが表示されます。
3. 操作完了のメッセージが表示されたら、[ **Done** ] をクリックしてインストール処理を完了します。

アップグレードのプロセスの最後に、システムを再起動するか、ログアウトするように求めるメッセージが表示されます。画面の指示に従ってください。

どちらの場合も、ARgon Server サービスは自動的に再起動します。

アップグレードが完了したら、次のことを行う必要があります。

- 意図したとおりに動作するよう TLS の設定を変更します。アップグレードする以前のバージョンで TLS を設定していない場合は、この手順を無視してください。



アップグレードするとメールフローが停止する **SMTP Inbound Transport, SMTP Outbound Transport, and SMTP Alert**

**Transport** サービスを再起動してメールフローを有効にする前に、コネクションプロファイルで強制的 TLS の送信設定を変更する必要があります。

- 送信 TLS の場合、電子メールルーティングテーブルエントリをコネクションプロファイルに関連付けます。  
ユーザーインターフェースに、関連付けを必要とするコネクションプロファイルの一覧に警告が表示されます。
- メールフローを再起動します。この手順は、以前のバージョンでアウトバンドの強制的 TLS を使用していた場合にのみ適用します。
- コネクションプロファイルのクライアントホストおよび送信者ドメインリストのメンテナンスを行います。送信者ドメインを別に設定します。  
アップグレード時に IP アドレスが、外両方のリストに配置されるため、クライアントホストリストからドメインを削除し、送信者ドメインリストからホストを削除する必要があります。詳細については、「SMTP コネクションの管理」を参照してください。

## 付録: ソフトウェアインストールプロセス(ディスクから)

ISO イメージを使用して既存の Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.9 サーバー (適切に設定された AWS または Azure のインスタンスを含む) 上に、Clearswift ARgon for Email をインストールする手順は次の通りです。



RHEL 6.9 を **最小限**のサーバーとしてインストールし、/(root) パーティションと /var パーティションを個別に作成する必要があります。ルートパーティションに、最小限 20 GB、テスト環境のために /var は最小限 60GB と本番環境のために 200GB が必要です。

をインストールするには:

1. コマンドラインで root の権限を使用します。
2. ISO イメージが格納されているメディアを挿入し、/media/os にマウントします。

```
mkdir -p /media/os
```

```
mount /dev/cdrom /media/os
```

3. cs-emailweb-repo-confemail-repo-conf パッケージを手動でインストールします。cs-emailweb-repo-confemail-repo-conf パッケージは、Clearswift ARgon for Email をインストールするための準備をシステムに設定します。

```
rpm -ivh /media/os/cs-repo/Packages/cs-email-repo-conf-3.4.1-2526.x86_64.rpm
```

4. postfix、rsyslog、samba V3 を強制的に削除します。

```
yum -y remove postfix rsyslog samba-common
```

5. 次のコマンドを使用して、必要な製品をインストールします。

```
yum install -y cs-argon-email --enablerepo=cs-*
```

このコマンドは、外部リポジトリへのアクセスを可能にし、その後 Clearswift リポジトリのみが ARgon Server のインストールに使用されることを保証します。



新たな不一致事項のために手順 5 が失敗する場合は、手順 4 の間に別のパッケージの削除が必要な場合があります。

6. 完全にログアウトし、cs-admin として再度ログインします。「[First Boot Console の実行](#)」を参照して作業を続行します。

## インストール後の注意事項

ソフトウェアのインストールプロセス完了後には、インストールプロセスにより、次のシステムの一部が変更されている場合があります。

1. ファイアウォールの設定は、ARgon の制御下になりました。SSH アクセスが必要な場合には、Clearswift ARgon for Email ユーザー インターフェースから再度有効化する必要があります。詳細については、オンラインヘルプから Clearswift ARgon for Email の「[SSH アクセスの設定](#)」を参照してください。
2. すべてのネットワーク構成は Server Console の制御下となりました。コマンドラインでネットワーク構成を変更すると、ARgon Server にネットワーク構成の変更が通知されないため、避けなくてはなりません。コマンドラインからネットワーク構成を変更する必要がある場合には、Clearswift サポートにお問い合わせください。
3. crontab の構成が変更されます。既存の root の cronjobs が失われる可能性があります。それらを再度追加することができます。

## ソフトウェアのインストールプロセスが完了したら...

ソフトウェアのインストールプロセスでは、既存のリポジトリ構成は自動的に無効になりません。コマンドラインから追加のサードパーティ製ソフトウェアを通常の方法でインストールすることができます。これには追加の RedHat ソフトウェアが含まれます。

4.6 以降のバージョンでは、Clearswift Server Consoleを使用して Clearswift が提供するアップグレードのみを適用することができます。



Server Console では、アップグレードプロセス中に信頼できる Clearswift リポジトリのみが使用され、プロセス中にサードパーティのリポジトリからの意図しない更新が明示的にブロックされます。

---

## 付録: ソフトウェアのインストールプロセス(Clearswift

---

## オンラインリポジトリから)

次の手順では、Clearswift がオンラインでホストしているリポジトリを使用して、既存の Red Hat Enterprise Linux( RHEL) 6.9 サーバー( 適切に構成された AWS または Azure のインスタンスを含む) に Clearswift ARgon for Email をインストールする方法を説明します。このインストールを完了するには、インターネットにアクセスする必要があります。



RHEL 6.9 を**最小限**のサーバーとしてインストールし、/(root) パーティションと /var パーティションを個別に作成する必要があります。ルートパーティションに、最小限 20 GB、テスト環境のために /var は最小限 60GB と本番環境のために 200GB が必要です。

をインストールするには:

1. コマンドラインで root の権限を使用します。
2. cs-emailweb-repo-confemail-repo-conf パッケージを手動でインストールします。cs-emailweb-repo-confemail-repo-conf パッケージは、Clearswift ARgon for Email をインストールするための準備をシステムに設定します。

```
rpm -ivh http://repo.clearswift.net/rhel6/gw/os/x86_64/Packages/cs-email-repo-conf-3.4.1-2526.x86_64.rpm
```

3. postfix、rsyslog、samba V3 を強制的に削除します。

```
yum -y remove postfix rsyslog samba-common
```

4. 次のコマンドを使用して、必要な製品をインストールします。

```
yum install -y cs-argon-email --enablerepo=cs-*
```

このコマンドは、外部リポジトリへのアクセスを可能にし、その後 Clearswift リポジトリのみが ARgon Server のインストールに使用されることを保証します。



新たな不一致事項のために手順 5 が失敗する場合は、手順 4 の間に別のパッケージの削除が必要な場合があります。

5. 完全にログアウトし、cs-admin として再度ログインします。「[First Boot Console の実行](#)」を参照してください。

## インストール後の注意事項


ソフトウェアのインストールプロセス完了後には、インストールプロセスにより、次のシステムの一部が変更されている場合があります。

1. ファイアウォールの設定は、ARgon の制御下になりました。SSH アクセスが必要な場合には、Clearswift ARgon for Email ユーザーインターフェースから再度有効化する必要があります。詳細については、オンラインヘルプから Clearswift ARgon for Email の「[SSH アクセスの設定](#)」を参照してください。
2. すべてのネットワーク構成は Server Console の制御下となりました。コマンドラインでネットワーク構成を変更すると、ARgon Server にネットワーク構成の変更が通知されないため、避けなくてはなりません。コマンドラインからネットワーク構成を変更する必要がある場合には、Clearswift サポートにお問い合わせください。
3. crontab の構成が変更されます。既存の root の cronjobs が失われる可能性があります。それらを再度追加することができます。

## ソフトウェアのインストールプロセスが完了したら...

ソフトウェアのインストールプロセスでは、既存のリポジトリ構成は自動的に無効になりません。コマンドラインから追加のサードパーティ製ソフトウェアを通常の方法でインストールすることができます。これには追加の RedHat ソフトウェアが含まれます。

4.6 以降のバージョンでは、Clearswift Server Consoleを使用して Clearswift が提供するアップグレードのみを適用することができます。

 Server Console では、アップグレードプロセス中に信頼できる Clearswift リポジトリのみが使用され、プロセス中にサードパーティのリポジトリからの意図しない更新が明示的にブロックされます。

## 付録: USB インストール メディアの準備

次の手順では、Clearswift ARgon for Email ソフトウェアの ISO イメージを USB メディアにコピーする方法を説明します。

1. Clearswift ARgon for Email ソフトウェアの ISO イメージを、[オンライン Clearswift リポジトリ](#)からダウンロードします。



必ず正しいバージョンの ISO イメージを使用してください。EMAIL\_470\_170.iso

2. ドライブのボリューム名を保持する USB ツールをダウンロードします。[Rufus Portable](#) の使用をお勧めします。




このプロセスにRufusの標準バージョンを使用しないでください。ポータブル版であることを確認してください。

Rufusの代わりにUSBツールを使う場合、以下のUSBツールは Clearswift ARgon for EmailのソフトウェアISOイメージでは使用できません:



- YUMI
- Universal USB Installer
- Fedora liveusb-creator

次の手順では Rufus 2.11 Portable の使用を想定しています。

3. **rufus-2.11p.exe** を実行します。
4. USB メディアを挿入し、それを【デバイス】ドロップダウンメニューから選択します。
5. 【フォーマットオプション】から【ブート可能なディスクの作成】を選択し、ディスクアイコン  を選択して、書き込みを行う Clearswift ARgon for Email ISO を選択します。Rufus は ISO をスキャンし、他のオプションは自動的に記入されます。
6. 【Start】をクリックします。【ISOHybrid image detected】のダイアログボックスが表示されます。【Write in ISO Image mode (Recommended)】を選択し、【OK】をクリックします。ドライブの既存のすべてのデータが削除されることを警告するダイアログボックスが表示されます。続行する場合は【OK】をクリックします。
7. インストールが完了したら、「[Clearswift ARgon for Emailのインストール手順](#)」に戻ります。